

こんな本も読んでみましょう

選者：NPO 法人 日本ブック協会 理事長 有元 秀文

子どもに語るアラビアン・ナイトより

「クジラの島 シンドバード1回目の航海」

しまだと思って、かいじゅうの せ中にのってしまったおはなし

わたし（シンドバード）は、ちちおやからもらった、ざいさんをむだづかいしてしまいました。のこったお金をふやすために、ふねにのって、ひがしインドにむかいました。しまだと思って、じょうりくして、のんだりたべたりしていたら、とつぜんしまがぐらぐらとゆれだしました。しまだとおもっていたのは、クジラの せ中だったのです。わたしはうみにとりのこされました…。

子どもに語るアラビアン・ナイトより

「アリ・ババと、召し使いのモルジアナに殺された四十人の盗賊」

「ひらけ、ゴマ」といったら、たからものが入っていました！

カシムとアリ・ババという、きょうだいがいました。あにのカシムは金もちでしたが、アリ・ババはびんぼうでした。アリ・ババは、とうぞくたちにあいました。とうぞくのまねをして「ひらけ、ゴマ」というと、たからものが入っていました。金か をもち出して町へもどりました。そのことをしたカシムはたからをひとりじめにしようとおもいました…。

詩：エロール・ル・カイン

「アーサー王の剣」

いつも王をまもってくれた剣を、ま女がぬすもうとします。

アーサー王という王さまがいました。ある日、まほうつかいと、かりに出たらあたりがくらい森にかわっていました。うまをすすめていくと、水の中からひめぎみがあらわれました。ひめは王に「どんなのぞみでもかなえてくれる けん」をくれました。けんは、せんそうのときには王をまもってくれました。しかしま女が、けんをぬすもうとしたのです…。